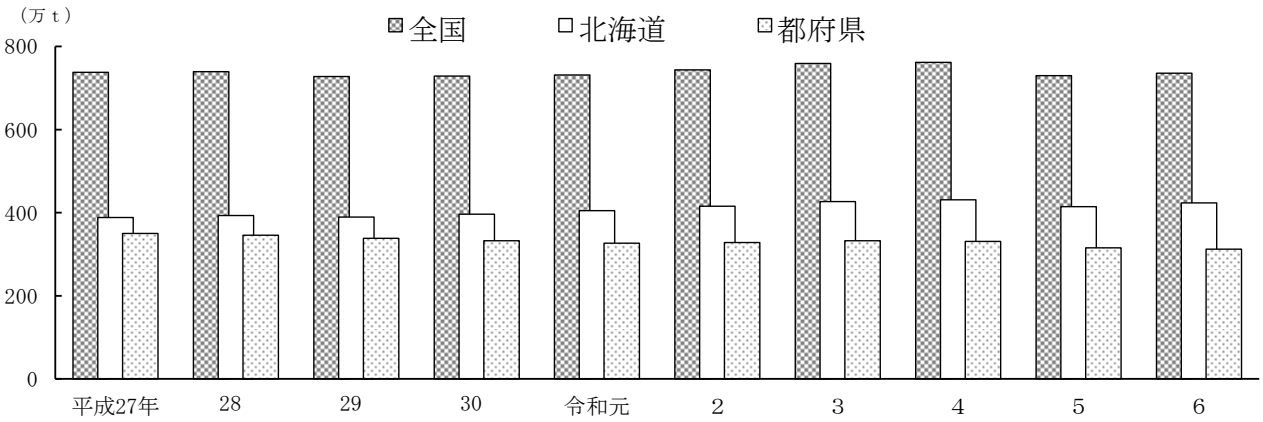
1　生乳生産量と用途別処理量

(1)　生乳生産量

生乳の生産量は735万7,451ｔで、前年に比べ0.8%増加した。

また、北海道の生乳生産量は423万3,050ｔで、前年に比べ2.1%増加した一方で、都府県の生乳生産は312万4,401ｔで、前年に比べ0.9%減少した。

図１　生乳生産量の推移



(2)　用途別処理量

生乳の処理量を用途別にみると、牛乳等向け処理量は382万3,034ｔで、前年に比べ0.7%減少し、乳製品向け処理量は348万7,162ｔで、前年に比べ2.5%増加した。

図２　牛乳等向け及び乳製品向け処理量の推移（全国）

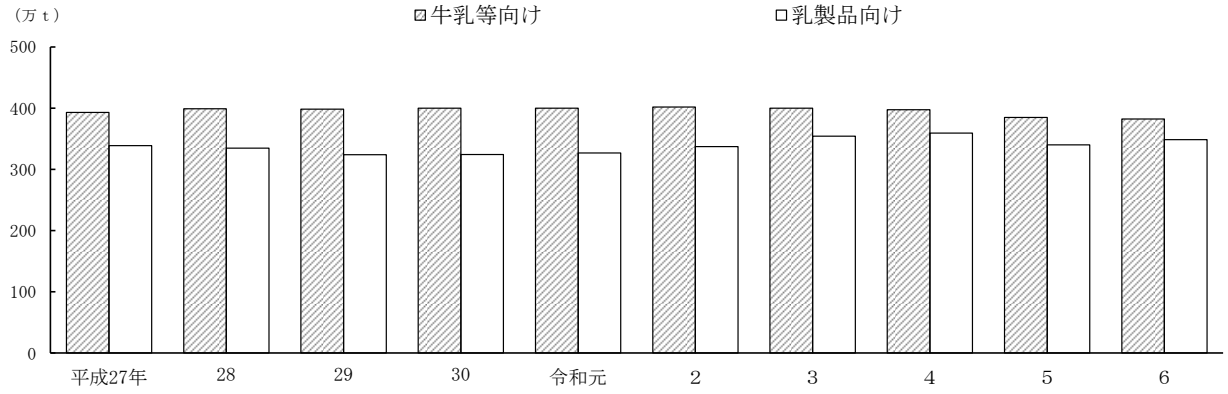


表１　生乳生産量（全国、北海道・都府県別）及び用途別処理量（全国）

単位：ｔ

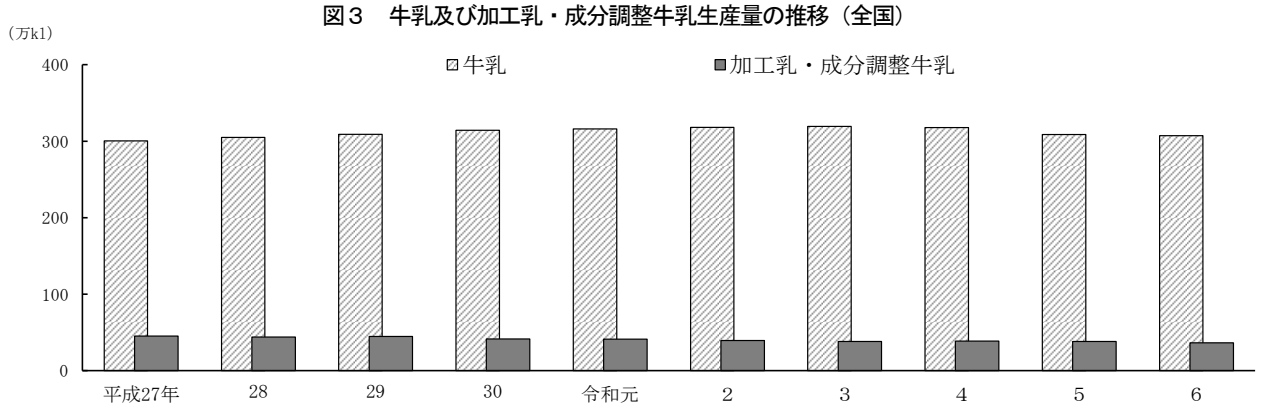
年　次	生乳生産量			用途別処理量				
	全国	北海道	都府県	牛乳等向け	業務用向け	乳製品向け	チーズ向け	その他
令和５年	7,298,933	4,146,981	3,151,952	3,850,302	297,439	3,402,222	450,609	46,409
6	7,357,451	4,233,050	3,124,401	3,823,034	297,054	3,487,162	447,211	47,255
対前年比（%）	100.8	102.1	99.1	99.3	99.9	102.5	99.2	101.8

2　牛乳等生産量

(1)　飲用牛乳等生産量

飲用牛乳等の生産量をみると、牛乳の生産量は307万3,420klで、前年に比べ0.4%減少し、加工乳・成分調整牛乳の生産量は36万3,750klで、前年に比べ4.7%減少した。

図３　牛乳及び加工乳・成分調整牛乳生産量の推移（全国）



(2)　乳飲料、はっ酵乳及び乳酸菌飲料生産量

乳飲料の生産量は101万8,384klで、前年に比べ4.7%減少した一方で、はっ酵乳の生産量は102万4,492kl、乳酸菌飲料の生産量は10万5,527kl で、前年に比べそれぞれ2.9%、8.3%増加した。

図４　乳飲料、はっ酵乳及び乳酸菌飲料生産量の推移（全国）

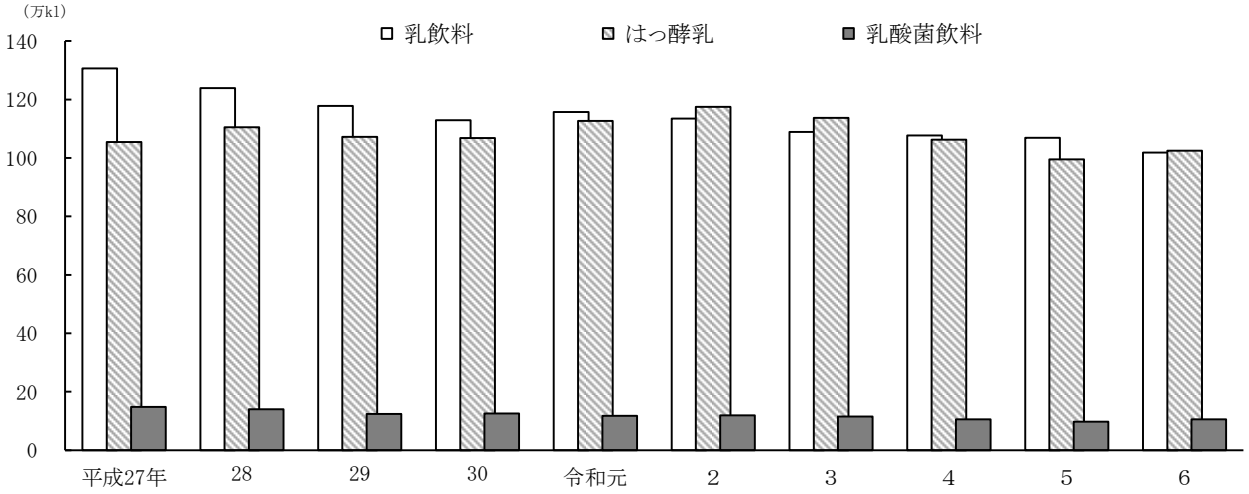


表２　牛乳等生産量（全国）

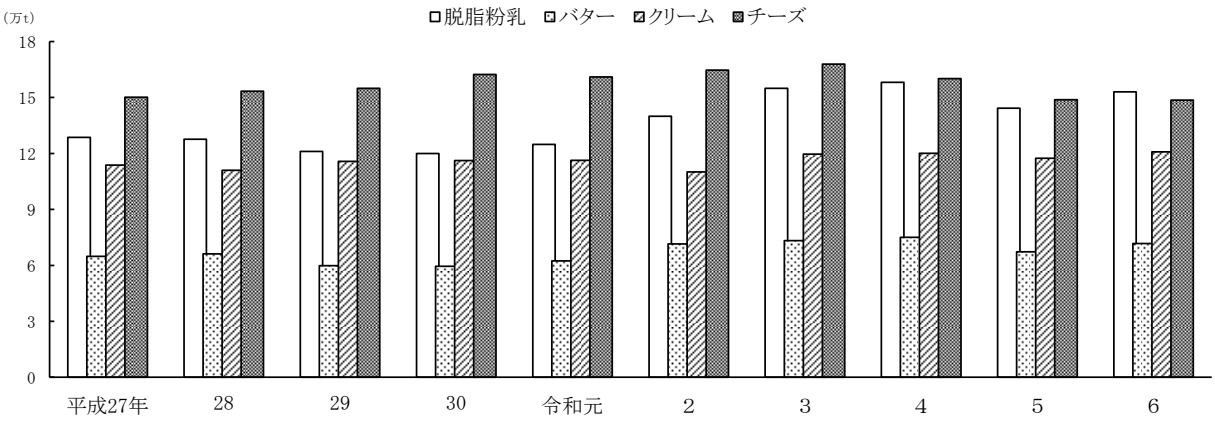
単位：kl

年　次	飲用牛乳等							乳飲料	はっ酵乳	乳酸菌飲料
	計	牛乳			加工乳・成分調整牛乳					
			業務用	学校給食用		業務用	成分調整牛乳			
令和５年	3,468,400	3,086,762	273,851	345,055	381,638	70,709	237,636	1,068,946	995,523	97,402
6	3,437,170	3,073,420	272,431	341,292	363,750	70,731	216,406	1,018,384	1,024,492	105,527
対前年比（%）	99.1	99.6	99.5	98.9	95.3	100.0	91.1	95.3	102.9	108.3

3　乳製品生産量

主な乳製品の生産量をみると、脱脂粉乳は15万2,983ｔ、バターは7万1,723ｔ、クリームは12万904ｔで、前年に比べそれぞれ6.0%、6.5%、3.0%増加した一方で、チーズは14万8,618ｔで前年に比べ0.1%減少した。

図５　主要乳製品生産量の推移（全国）



注：平成29年１月調査から調査定義を変更したため、平成28年以前と平成29年以降のクリームの生産量は連続していない。

表３　乳製品生産量（全国）

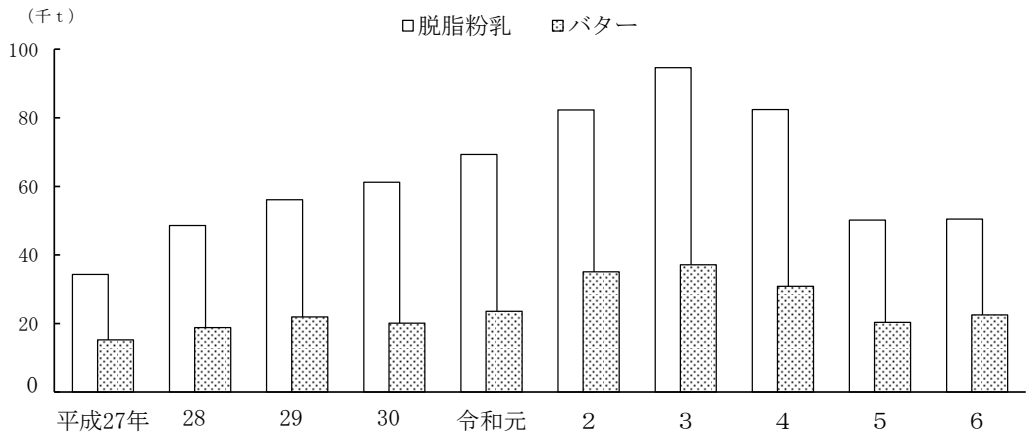
年 次	全粉乳	脱脂粉乳	調製粉乳	ホエイパウダー	バター	クリーム
	t	t	t	t	t	t
令和５年	10,515	144,284	31,809	17,807	67,337	117,379
6	11,258	152,983	29,218	17,090	71,723	120,904
対前年比（%）	107.1	106.0	91.9	96.0	106.5	103.0

年 次	チーズ	直接消費用ナチュラルチーズ	プロセスチーズ	加糖れん乳	無糖れん乳	脱脂加糖れん乳	乳脂肪分８%以上のアイスクリーム
	t	t	t	t	t	t	kl
令和５年	148,808	33,785	115,023	30,186	420	3,235	134,517
6	148,618	33,621	114,997	30,278	324	3,281	146,947
対前年比（%）	99.9	99.5	100.0	100.3	77.1	101.4	109.2

4　乳製品在庫量

令和６年12月31日現在の脱脂粉乳の在庫量は５万491ｔ、バターの在庫量は２万2,492ｔで、前年に比べそれぞれ0.7%、10.7%増加した。

図６　乳製品在庫量（12月31日現在）の推移（全国）



５　牛乳処理場及び乳製品工場数

令和６年 12 月 31 日現在の牛乳処理場・乳製品工場（以下「工場」という。）数は 539 工場で、前年に比べ３工場減少した。

内訳をみると、牛乳処理場は 331 工場で前年に比べ１工場減少し、乳製品工場は 152 工場で１工場増加した。

また、生乳処理量規模別にみると、１日当たり２ｔ以上の工場数は、牛乳処理場が 183 工場で前年に比べ１工場増加し、同規模の乳製品工場は前年と同数の 38 工場であった。

図７　生乳処理量規模別工場数の推移
（全国）（12 月 31 日現在）

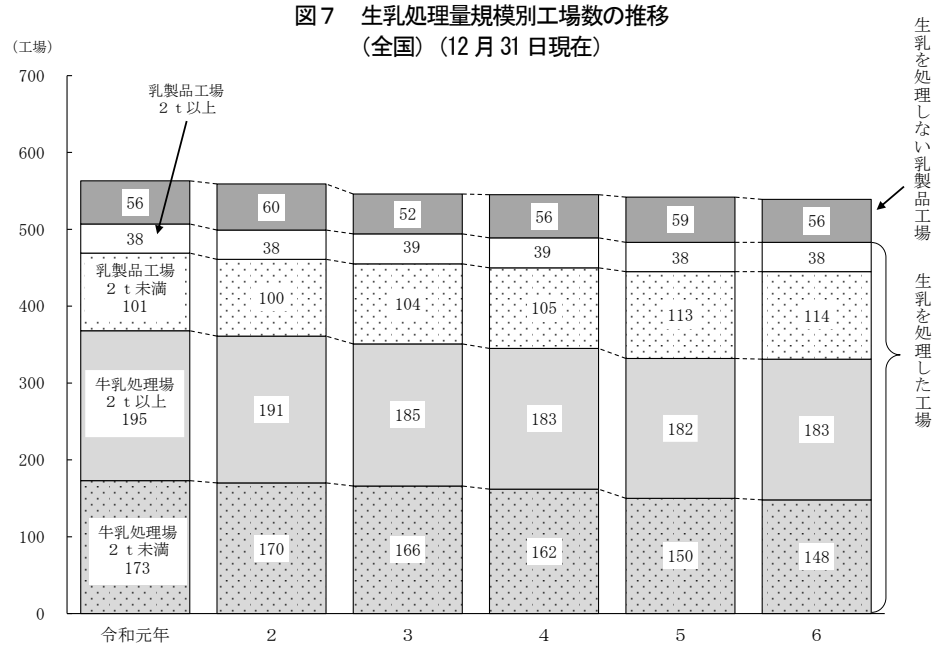


表４　生乳処理量規模別工場数（全国）（12 月 31 日現在）

単位：工場

年　次	合計	生乳を処理した工場							生乳を処理しない乳製品工場
		計	牛乳処理場			乳製品工場			
			小計	２ｔ未満	２ｔ以上	小計	２ｔ未満	２ｔ以上	
令和５年	542	483	332	150	182	151	113	38	59
6	539	483	331	148	183	152	114	38	56
対前年差	△ 3	0	△ 1	△ 2	1	1	1	0	△ 3

注：１　生乳処理量規模別は、12 月における１日当たりの生乳の平均処理量を基に区分した。
　　２　本統計表では、生乳を処理した工場の分類として、生乳を主として牛乳等の生産に仕向けた工場を「牛乳処理場」、主として乳製品の生産に仕向けた工場を「乳製品工場」としている。